

### 令和3年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する 2 総合的な知の習得を行う 3 地域との交流を深めた教育活動を行う
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	事務局(教職員)	9名
	生徒	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	各教科において学習評価の工夫・改善を行い、R4から実施される観点別評価に備える必要がある。新学習指導要領の着実な実施につなげていく。 進路について保護者から情報を求める声が多い。生徒・保護者に対して知りたい進路情報を随時適切に発信していく。	○学習評価の視点を重視した学習指導ときめ細かい指導や充実を図る。 ○生徒、保護者の進路意識を啓発し、第1志望をあきらめさせない進路指導・教科指導を行う。	①各教科で学習指導計画表を見直し、評価の場面・評価方法を工夫・改善する。 ②シラバス、ルーブリック表についてICT化を行う。 ③教員がお互いの授業を見ることで学習評価の改善やICTを効果的に活用した指導のノウハウを学び合う。 ④職員全体で「一般選抜受験で国公立大学・難関私立大学を目指す力」をつけさせる進路指導・教科指導を行う。	①授業アンケートで「学習評価が学習意欲につながっている」と回答する生徒数が8割を上回ったか。 ②学校生活アンケートで「ICT活用で成績が向上した」「授業の理解が深まった」と回答する生徒数が増えたか。 ③教員アンケートで「学習評価の改善を行うことができた」「ICTを効果的に活用できた」と回答する教員数が8割を上回ったか。 ④国公立型の共通テスト出願者数増、合格者10名以上、難関私立大にチャレンジする生徒数増、合格者25名以上とする。	評価項目の達成状況はおおむね達成できた。①学校生活アンケート「学習評価が学習意欲につながっている」と回答した生徒が88%(12月実施)。②学校生活アンケートで「ICT活用で成績が向上した」「授業の理解が深まった」と回答する生徒数がそれぞれ54.4%、61.7%。昨年比減。(12月実施)③教員アンケートで「学習評価の改善を行うことができた」「ICTを効果的に活用できた」と回答する教員は、それぞれ76.5%、82.4%(12月実施)。④共通テスト出願者数は246名、国公立大出願は17名。国立大合格者は5名。難関私大合格者は25名(3月23日現在)。	B	来年度から始まる観点別評価については、各教科で検討し、課題が見えてきた。生徒・保護者に公開予定のシラバスも今年度中に完成予定。教育DXということばも至るところで言われるようになった。ICTを活用し、知識・技能を効果的に獲得し、思考力・表現力・判断力を伸ばす充実した授業を実践していく。今後も、第1志望をあきらめさせず、国公立大、難関私大にチャレンジする進路指導の取組を継続していく。
2	GIGAスクール構想の実現のため、環境整備を行う必要がある。 新たなICT環境を最大限に活用し、多様な生徒一人ひとりの興味や関心、意欲等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出す指導・支援を行っていく。	○多様な生徒一人ひとりに応じた探究的な学び、実社会での課題解決に活かしていくための教科等横断的な学びを構築する。	①BYODの整備を進めつつ、より効果的な活用ができるよう絶えず点検・評価を行う。 ②「すぐにも」「どの教科でも」「誰でも」活かせる一人1台端末の活用場面を増やし、「主体性・協調性・共感力・発信力・継続力」を確実に身に付けさせる。 ③オリンピック・パラリンピック教育推進校として、東京オリ・パラの開催意義、自ら社会に貢献しようとする力、あり方生き方を考えさせる。	①運用の際に想定される課題を解決することができたか。 ②学校生活アンケートで1人1台端末により「各教科、総合的な探究の時間、特別活動等で5つの力」を身に付けられたと回答した生徒数が8割を上回ったか。 ③トップ・アスリート講演会及び小高交流事業を実施できたか。	評価項目の達成状況は、ほぼ達成できた。①BYOD登録は7月に完了。各教科、特別活動において活用されている。②学校生活アンケートで1人1台端末により「各教科、総合的な探究の時間、特別活動等で5つの力を身に付けられた」と回答した生徒数は71.1%(12月実施)。③トップアスリート講演会は緊急事態宣言下でオンラインで講師と対話型の講演会を実施。小高交流事業は、11月に男子バスケットボール部、サッカー部、ダンス部による活動が無事実施できた。	A	9月のオンライン授業には生徒の97%が主体的に取り組みたとアンケートで答えている。同時に、板書が見えない音声が聞こえないなどの不具合も浮き彫りになった。ICTを活用する教員側の技術も継続的に高めていきたい。スマートフォンを効果的に活用する授業を増やす環境づくりも進めていく。
3	昨年度はコロナ禍で地域との交流が限定的にせざるを得なかった。その中でも、協働的な学びの機会となっている小学校との交流事業の他に中学校との交流の機会を持っていく。また、学校全体で共に杉高の魅力を発信し、生徒募集につなげていく。	○学校が家庭や地域社会と連携し協働的な学びを実現する。	①「総合的な探究の時間」において、SDGsの視点も加えた地域社会が抱える課題や魅力の発見・課題解決に資する知識及び技能を習得させる。 ②生徒が社会とつながり、学ぶ意欲が育まれる魅力ある学校であることを教職員及び生徒と共に力を合わせ、あらゆる機会を捉えてアピールしていく。	①杉戸町と連携する機会が増えたか。学校生活アンケートで「総合的な探究の時間」をとおして目標を達成できたと回答した生徒が8割を上回ったか。 ②ホームページへの記事投稿が前年度より増えたか。部活動は年3回更新できたか。本校生徒を実際に見てもらえるような形での広報活動が展開できたか。	評価項目の達成状況は、おおむね達成できた。①杉戸町と連携する行事がコロナ禍で中止となったが、「持続可能な社会を生きるグローバル人材育成事業」や外部機関との連携でSDGsを学ばせた。学校生活アンケートで「総合的な探究の時間」をとおして目標を達成できたと回答した生徒は84.5%。(12月実施)②ホームページの記事投稿は、前年度より増えたが、6割の部活動が年3回更新は達成できていない(12月現在)。11月に新しい取組をまとめたリーフレットを作成し、生徒募集の裾野を広げるための中学校訪問を行った。	B	生徒自身が希望している学問領域での学びをSDGsと結び付け考えさせたことにより主体的な発表ができ、探究的な考え方を深めるができている。今後は、グローバルな視点も加え、地域と連携した取組を行っていく。  生徒募集は、依然として大きな課題である。本校の新たな取組を広域に効果的にアピールする方法を常に模索し、実践していく。

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月8日)	
・ICTを活用した授業に取り組んでいる成果がうかがえる。・コロナ対応で業務増の中、新たな指導形態に前向きに取り組んでいる。・学力向上に「学習評価」と「ICT活用」の2点を重視して取り組んでいるのは中学校も同じである。情報交換、意見交換で中高の連携が図れるとお互いに刺激になるだろう。・保護者としては学習評価の改善もICTの活用もとても期待する取組である。・昨年度はプリントでの自主学習が多かったが、今年度はオンライン授業など対応しICTをうまく活用できていた。・ICTの利用は良いことだがそれを先生方全員が使いこなしているとはまだ言えない。(生徒)・excelやwordなどパソコンの機能を使った授業があると今後役に立つと思う。(生徒)	
・BYODの環境づくりが進んでいることがわかる。「総合的な探究の時間」を通じて「5つの力」とともに横断的な学習が実践され、思考力を伸ばし多様な価値観を理解する力が育てられていると思う。・コロナ下でも工夫を凝らしトップアスリートの経験や考え方を聴く機会が設けられたことは良かった。小高交流事業も平時以上の貴重な経験となり、より大きな成長を促す機会となったのでは。・ICTの環境に、まず生徒達はその環境に対応できたのか評価が難しいと思った。・体育祭のライブ配信はありがたかったが、改善の余地があると思った。・「一人一台端末」の実施が非常に遅れている。「一人一台端末」で教育された小中学生が高校生になり紙に戻るという事態になる。(生徒)・「主体性」は全く身につけていないと思う。「総合的な探究の時間」の議題が強制されている感覚がある。議題を探し、その回答を考え発表するのがいいと思う。(生徒)	
・コロナの影響で地域交流が計画どおり進展できなかったかもしれないが、実施可能範囲で外部機関と連携した学びの機会が設定できたことは評価に値する。・ホームページ更新は生徒募集の有効手段の一つである。更新が増えれば中学生や保護者が「明日も見よう」という気持ちになり興味も高まる。ほぼ毎日ホームページを見ているが、他の競合校より更新が少ないと思う。・保護者アンケートの結果は積極的に生徒募集に活用すべきと考える。・SDGsへの取組に早々に取り組んでいることは素晴らしい。杉戸町のPR活動にも貢献できればよいのでは。・生徒募集は、何か他校にない特徴、取組を作っていく必要があるだろう。・部活や授業を通して小学校と交流できたようで良かったと思う。残念ながらHPを見ないと知ることができなかった。毎月同じ日に更新するなど情報があればもっと杉戸高校を知ってもらえる機会につながると思う。夏服のポロシャツや女子生徒のストラップなど女子生徒がプラスに思う学校になれば志願者も増えていくと思う。・生徒の「主体性」を身につけられる校則が必要だと思う。杉戸高校のロコミを見ても「校則が厳しい」の声が多い。印象も悪い。生徒募集にも影響していると思う。(生徒)	